

2018年6月発行

安房普及だより

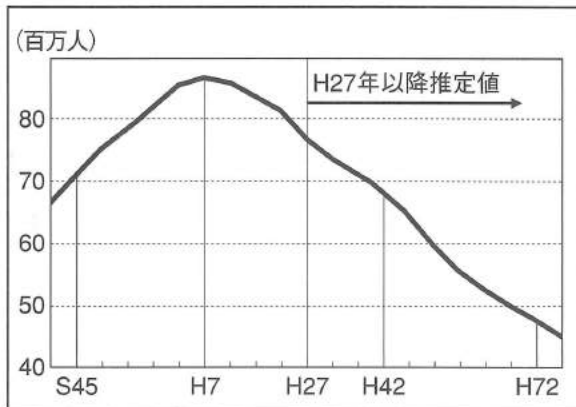
〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>
発行:安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



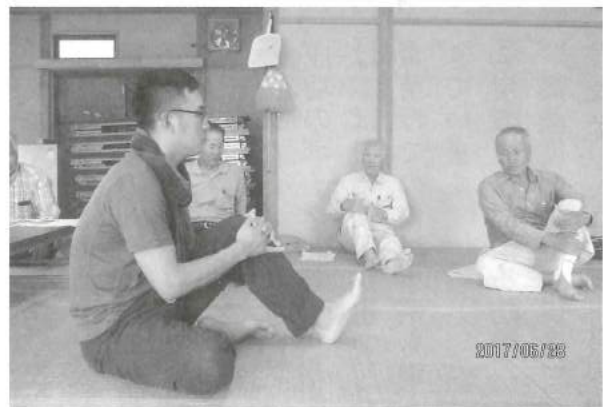
簡易定植器による植付けの様子



研修会の様子



生産年齢人口の予測(総務省情報通信白書から)



出荷調整時の体姿に有効なストレッチを学ぶ

省力化による 産地維持の取組

総務省の発表では、平成四二年までに、我が国の生産年齢人口(十五〜六十五歳)が七千万人を割り込むと予想されています。どの分野でも同じですが、花き栽培でも機械・負担軽減技術の導入を進めていく必要があります。

館山市伊戸地区では、ストック栽培における負担軽減の検討を始めました。昨年度は、機械メーカーや理学療法士を招いて、作業負担が大きい定植作業や出荷調整作業の改善について研修会を行いました。定植作業では、立作業ができるために腰の負担が少ない簡易定植器を役員が試験的に導入・評価を行い、今年度から組合で購入し、貸出しを行う予定です。

農業事務所では、将来の社会情勢を見据えた産地づくりを支援していきます。

GAPのしくみ

最近GAPという言葉をよく聞きますか？

GAPは、Good Agricultural Practiceの頭文字で、「良い農業のやり方」等と訳されます。

皆さんは、常に、自分の農場をより良くしたいと考えていると思います。

GAPでは、良い農場づくりを目指し、①農場管理のやり方、②安全な農産物を生産・出荷するやり方、③安全に作業をするためのやり方、④環境に配慮した農業のやり方などがまとめられています。

例えば、②なら「肥料や農薬の使用を記録している」、③なら「農作業における危険な箇所を書き出し、対策を考えている」、などがあります。

これらの項目の実現を目指し、まず自分がどこまでできているかをチェックし、でき

ていないものを改善し、これからも間違えないためのルールを作って実践する。これを繰り返して自分の農場を「より良い農場」に近づけていくのが、「GAPに取り組む」ことです。

さらに、GAPが正しく実施されていることを認証する仕組みが作られています。

日本では、(一財)日本GAP協会によるJGAP、各都道府県によるGAP等があり、千葉県では、平成30年2月から「ちばGAP」の制度を始めたところだ。

より良い農場を増やし、安全な農産物を消費者に届けるため、国もGAPの推進に取り組んでいます。

GAPをもっと知りたい、取り組んでみたい方は、当事務所までお問い合わせください。

イチゴのハダニ類に対する防除技術

イチゴのハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすく、化学合成農薬の散布だけでは防除することが難しくなっています。そのような背景から様々な防除方法が出ています。その中からいくつかの方法を御紹介します。

①天敵農薬

ハダニ類を食べるチリカブリダニやミヤコカブリダニを製剤化したものです。天敵放飼前に極力ハダニ類の生息をゼロにするゼロ放飼を徹底し、常にハダニ類よりも天敵が優位になるようにすることが成功のポイントです。今までは本ほどの使用が主でしたが、育苗ほどの使用事例も増えてきています。

②炭酸ガスによる防除

高濃度の二酸化炭素で満たしたテント状の機材の中に

定植前の苗を入れ、成虫と卵を殺虫します。育苗時から本へのハダニ類の持ち込みに対して効果的です。

③気門封鎖剤

澱粉や油等を主成分とする薬剤で物理的に窒息させます。使用回数に制限がなく、薬剤抵抗性を発達させない特徴があります。短所として残効性が無く、直接ハダニ類に付着しないと効果がありません。

④モベントフロアブルのかん注処理

定植前の苗にかん注処理することで苗全体に成分が浸透移行し、長い残効性を発揮します。ミツバチや天敵への影響日数を考慮して使用してください。

ハダニ類の防除は同系統の農薬の散布を避け、農薬だけに頼らず複数の手段を組み合わせて防除を行いましょ。

びわの種子及びびわの種子を用いた加工品の販売について

青梅には、大量に摂取すると健康を害する恐れのある天然の有害物質(シアン化合物)が高濃度に含まれていることが知られていますが、びわやアンズ、オウトウなどのバラ科植物の種子や未熟な果実にも多く含まれています。

昨年、びわの種子を粉末状に加工した食品(他県産)から、シアン化合物が高濃度で検出され、製品が回収される事例がありました。

食品衛生法では、有害な物質等を含む食品の製造・販売等が禁止されています。

そのため、びわ種子及びびわ種子粉末等の加工品を製造・販売する場合、生産・製造のロットごとにシアン化合物の自主検査を実施し、酸換算で10mg/kg以下であることを確認した上で、販売を行うことが必要となりました。

今後、びわの種子及び種子を用いた加工品の販売を検討している人は、必ず分析を実施してください。

なお、シアン化合物の検査が出来る機関は、(一財)千葉県薬剤師会検査センター(連絡先・043120518225)や(一財)日本食品分析センター(連絡先・031346917131)等があります。

一方、熟した果肉は安全に食べることが出来ます。また、葉の加工品も問題ありません。本件に関する問い合わせは、安房農業事務所企画振興課

(047012217131)
または千葉県安全農業推進課
(043122312888)

までお問い合わせください。



J A 安房鋸南の日本水仙 共選出荷本格始動!

鋸南町の生産者11名が、日本水仙の共選出荷を行い、平成29年度に3万4千本を出荷しました。

鋸南町は、鴨川市、南房総市と共に、日本水仙の産地です。これまで個人出荷が中心でしたが、安房農業事務所主催の「日本水仙いきいきセミナー」の卒業生6名が中心となり、平成28年度から共選出荷を開始しました。「花き業者にとっての使いやすさ」を一番に考え、次の3点にこだわって出荷しました。

- 1 花は蕾で揃えて出荷
- 2 セリ前日の夕方に、市場に荷物が到着するように出荷
- 3 出荷2日前までに、出荷予定数量を市場へ報告

また、新しくできた共選グループで知名度が低いため、11月に出荷者10名が市場へ

出向き、セリ前挨拶や展示によるPRを行いました。

共選出荷者からは、「日本水仙の需要期である12月は暖かい日が続く、開花が進んだため、蕾での出荷は大変だった」「12月上中旬の需要がない時期でも買い支えてもらい、共選に参加してよかった」「皆で勉強して選別をしっかりと、差別化して出せてよかった」等の声が聞かれました。今年もJA安房鋸南支店では日本水仙の共選出荷を行います。興味のある方は、JA安房鋸南支店(TEL・047015511551 担当・斉藤)へご連絡下さい。



写真 出荷された日本水仙
長さを揃えて蕾で出荷されます

安房地域

若手農業者の

活動紹介

平成30年1月25日に開催されました第57回千葉県青年農業者会議で、南房総市千倉町の密田英樹さんと鴨川市の太田和拓良さんが安房地域の代表として発表を行いました。密田さんは、平成27年に就農し、主に食用ナバナを中心とした露地野菜経営を行っています。太田さんは平成28年に就農し、酪農経営を行っています。

2人が発表を行いました青年農業者会議は、千葉県内の青年農業者が一堂に集まり日頃実践してきた活動の成果発表や、営農に対する意見発表、意見交換を通じた交流等を行うことで、青年農業者間のネットワークを広げることが目的に毎年開催されており、今年は260名の参加がありました。

た。

密田さんは「食用ナバナの基礎技術習得と今後の経営改善に向けた挑戦」という題目で播種時期の違いが出荷量に与える影響調査や堆肥によるコスト削減に向けた成果について発表しました。

太田和さんは高校時代の経験から考えた「自分がやりたい酪農のかたち」という題目で、就農して得た経験や喜び等を意見発表しました。その結果、太田和さんは優良賞である千葉県農業会議会長賞を受賞しました。

安房地域の将来を担う農業者として今後も2人の活躍を期待しています。



発表を行う密田さん

食用ナバナチャレンジセミナーの御案内

安房地域の特産である食用ナバナの栽培技術等を学べる実践的な研修です。詳細は、(一財)南房総農業支援センターもしくは安房農業協同組合までお問い合わせください。

鴨川七里®いきいきセミナー開催!

鴨川七里®(晩生エダメ)の出荷者を増やすことを目的として、鴨川七里を育てる会協力の下、6月から実習中心の栽培技術研修会を行います。全5回の研修で、安房地域内の概ね35歳以上の方が参加できます。定員は20名程度で、空きがある場合参加できますので、希望される方は当事務所竜澤までご相談下さい。

改良普及課職員紹介

改良普及課長 原 浩文

主席普及指導員 山田 博

【館山グループ】

長崎 仁(グループリーダー)(作物)

椎木 千晴(作物)

大山 康彦(花き)

青木 瑞代(果樹・生活)

渡邊 信吾(野菜)

永山 春菜(花き)

【鴨川グループ】

浅野清一郎(グループリーダー)

加藤 美紀(作物・花き・生活)

竜澤はるか(野菜)

石井 堅也(野菜)

後藤 衛(畜産)

【南房総・鋸南グループ】

石塚真理子(グループリーダー)

田中 千華(花き・生活)

影山 浩司(果樹)

橋本 威(野菜)

野中 太輔(畜産)

松永 大樹(野菜)

中後 貴寛(花き)

飛田 尚人(作物)